

=== T A C S 情報 第2号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和5年6月7日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月中旬の平均気温は、18.2℃（平年差+1.0℃）と平年に比べ高かった。

5月下旬の平均気温は、19.3℃（同+0.3℃）と平年並であった。

6月1半旬の平均気温は、20.8℃（同+0.8℃）と平年に比べ高かった。

(2) 降水量

5月中旬の降水量は、16.5mm（平年比38%）と平年に比べ少なかった。

5月下旬の降水量は、83.5mm（同231%）と平年に比べかなり多かった。

6月1半旬の降水量は、89.0mm（同718%）と平年に比べかなり多かった。

(3) 日射量

5月中旬の平均日射量は、20.5MJ/m²/日（平年比113%）と平年に比べ多かった。

5月下旬の平均日射量は、17.8MJ/m²/日（同93%）と平年に比べ少なかった。

6月1半旬の平均日射量は、21.9MJ/m²/日（同112%）と平年並であった。

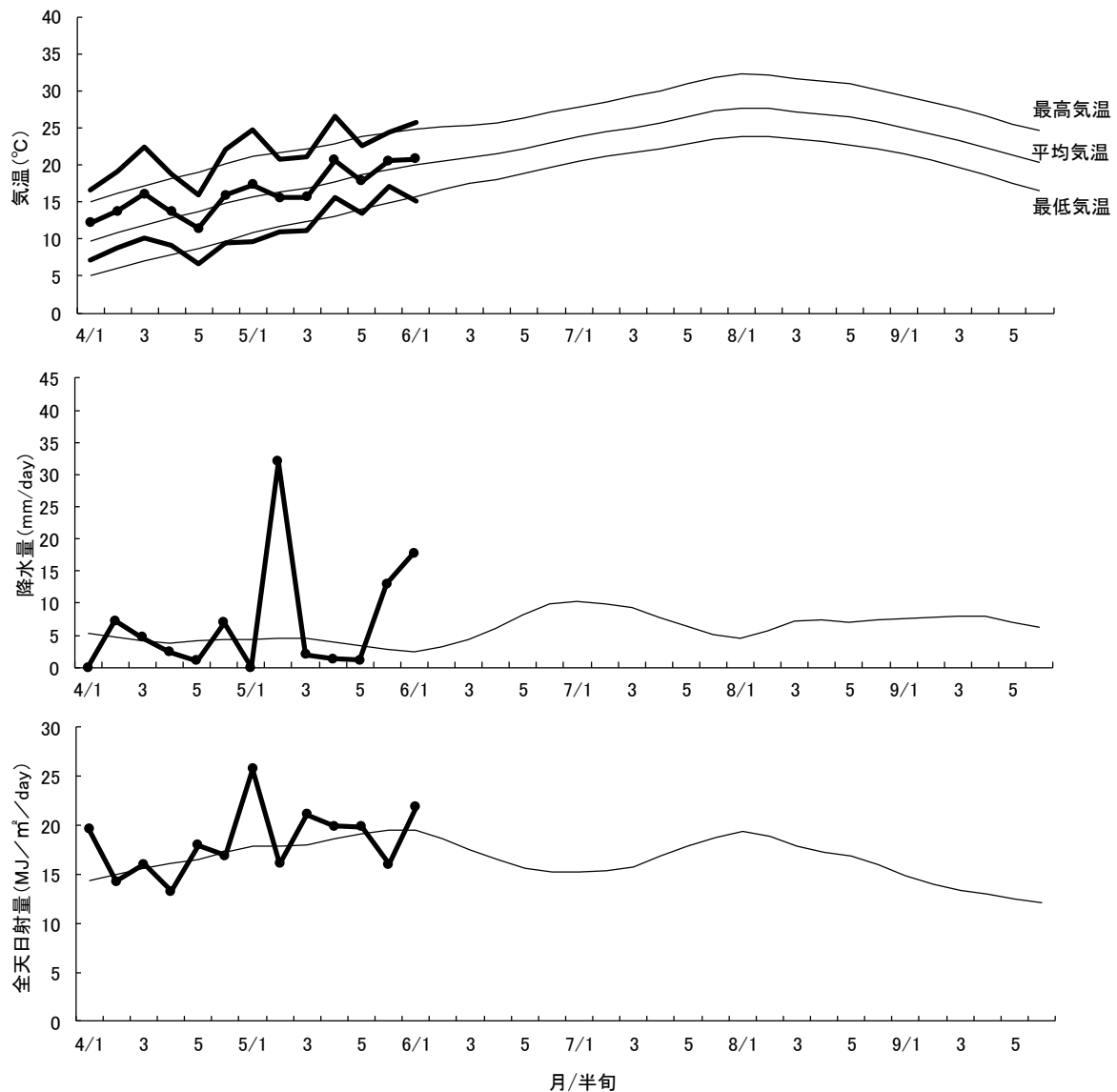


図1 令和5年の気象経過（富山地方气象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

(1) コシヒカリ

平年に比べ、草丈、葉齢、葉色は並、茎数はやや多くなっている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はやや多くなっている。

表1 「コシヒカリ」の生育状況（6月5日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R5	5月13日	29.4	10.5	229	6.6	4.2	36.3
R4	5月13日	27.6	11.0	243	6.5	4.1	35.2
平年	5月14日	28.6	9.8	213	6.5	4.2	35.9
前年比・差	0	107	95	94	0.1	0.1	1.1
平年比・差	-1	103	107	107	0.1	0.0	0.4

注) 平年 : H25~R4年の平均

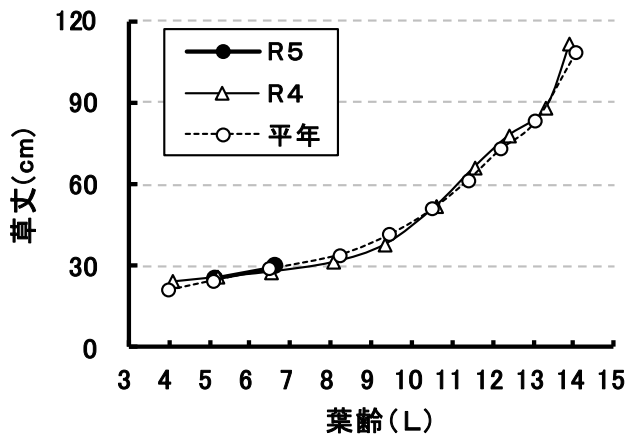


図2 草丈の推移（生観コシヒカリ）

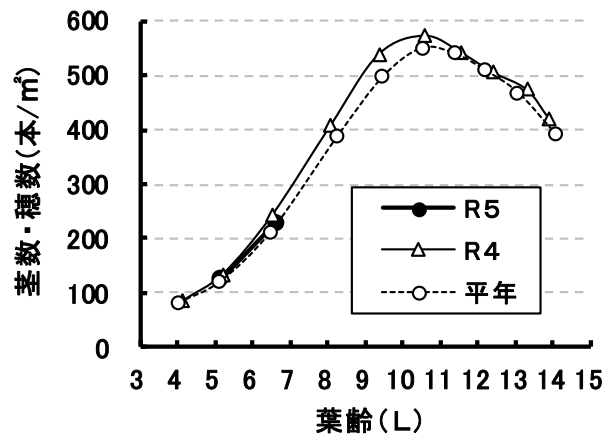


図3 茎数の推移（生観コシヒカリ）

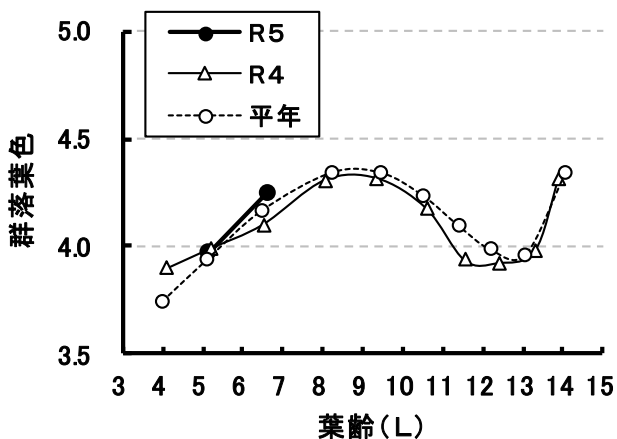


図4 葉色の推移（生観コシヒカリ）

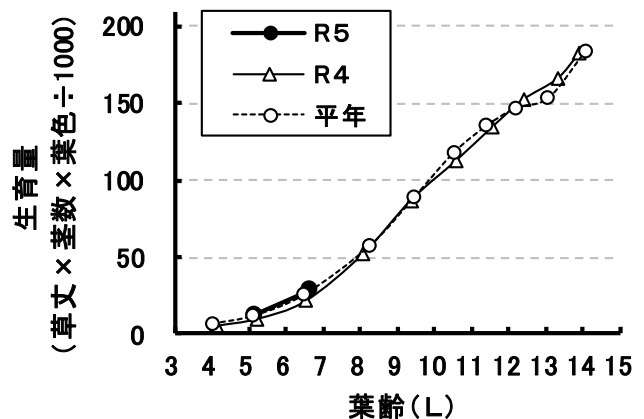


図5 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(2) てんたかく

平年に比べ、草丈、葉齢、葉色は並、茎数はやや少なくなっている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はやや少なくなっている。

表2 「てんたかく」の生育状況（6月5日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R5	5月3日	28.4	15.5	328	8.1	4.5	39.7
R4	5月1日	23.9	17.6	382	8.3	4.4	39.8
平年	5月4日	29.3	16.4	350	8.2	4.5	40.6
前年比・差	2	119	88	86	-0.2	0.1	-0.1
平年比・差	-1	97	94	94	-0.1	0.0	-0.9

注) 平年 : H25~R4年の平均

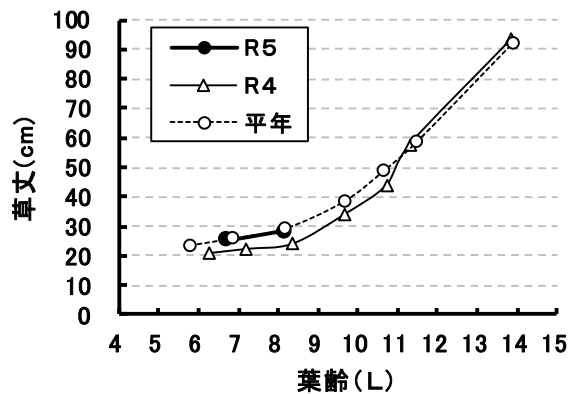


図6 草丈の推移（生観てんたかく）

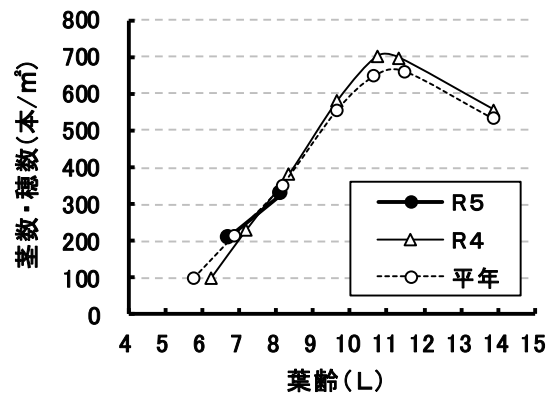


図7 茎数の推移（生観てんたかく）

(3) てんこもり

平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はやや少なく、葉齢は0.4葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉色は並となっている。

表3 「てんこもり」の生育状況（6月5日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R5	5月10日	26.6	14.1	272	7.3	4.5	39.2
R4	5月8日	23.9	14.6	276	7.6	4.4	39.3
平年	5月8日	25.9	15.7	298	7.7	4.5	39.7
前年比・差	2	111	97	99	-0.3	0.1	-0.1
平年比・差	2	103	90	91	-0.4	0.0	-0.5

注) 平年 : H25~R4年の平均

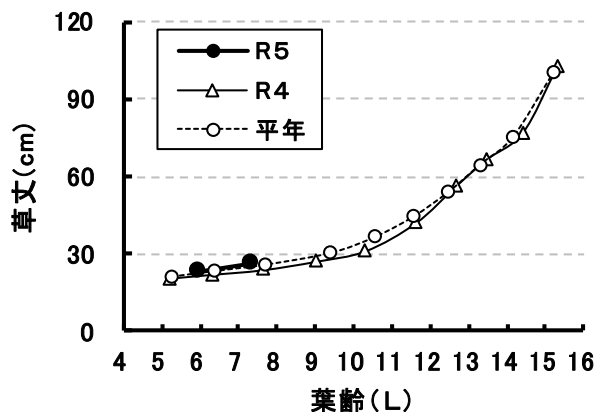


図8 草丈の推移（生観てんこもり）

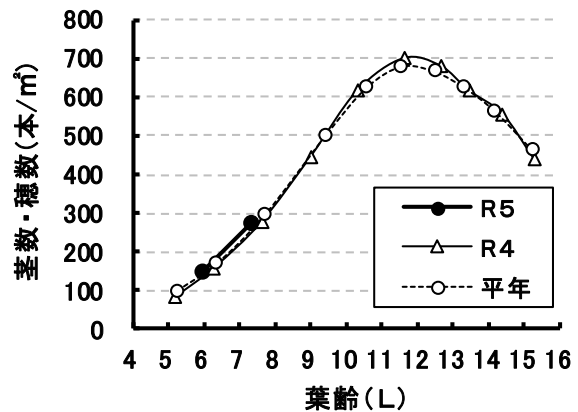


図9 茎数の推移（生観てんこもり）

3 当面の技術対策

- ・ **茎数が急速に増加する時期となることから、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。**
- ・ **中干し後は間断かん水を実施し、稲体の健全化を図る。**

(1) 溝掘り・中干しの徹底

① 「てんたかく」、「てんこもり」等の田植時期の早いほ場の管理

- ・ すでに中干し開始時期を迎えていることから、早急に中干しを実施する。

② 「コシヒカリ」の管理

- ・ 茎数が急速に増加する時期となることから、田植え後4週間までに中干しを遅れずに開始する。

なお、溝を設置していないほ場では、早急に溝掘りを行う。

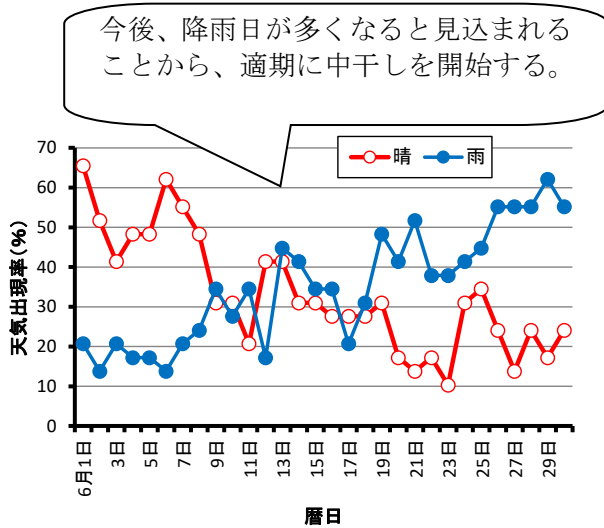


図10 富山の6月の日別天気出現率

注) 富山地方気象台、統計期間 1991～2020

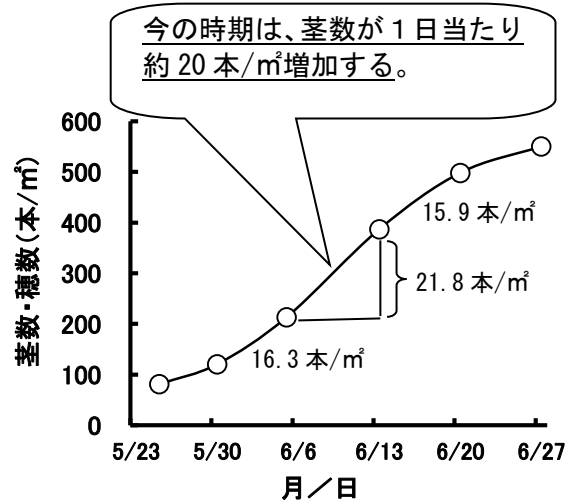
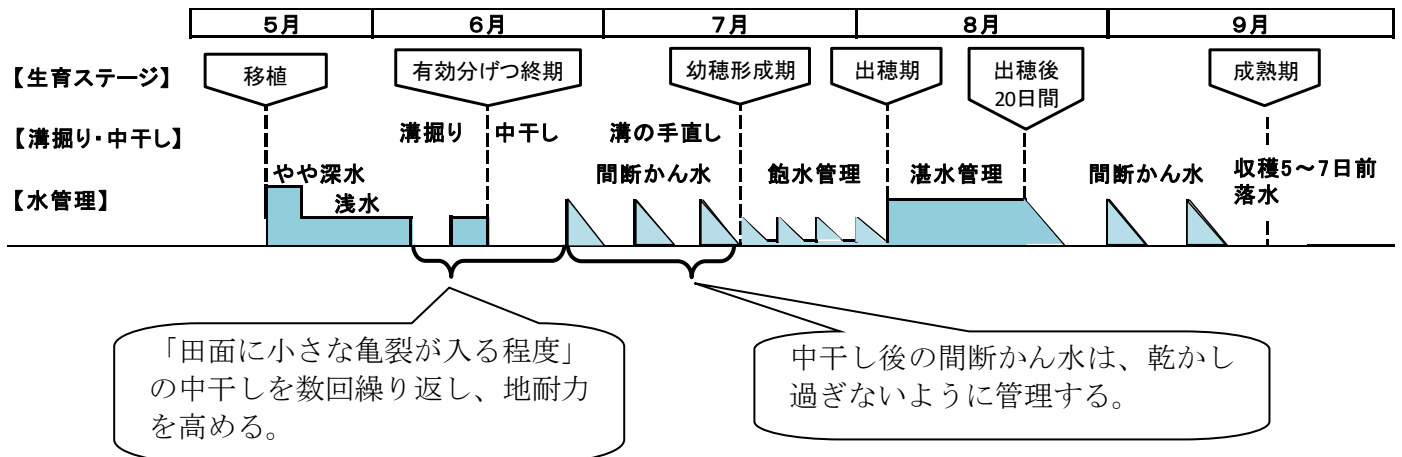


図11 茎数の推移 (生育観測ほ平均値)

注) H25～R4の平均

図中の数字は、各時期の1日当たりの茎数増加量

<水管理のイメージ>



(2) 中干し後の水管理

- ・中干し後は間断かん水を実施し、稲体の健全化を図る。なお、葉色の急激な低下を防ぐため、中干し後の間断かん水は、乾かしすぎないように注意し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ3cm程度」に誘導する。



中干しの終了時に、ほ場中央部でくるぶしまで軽く沈む程度を目安とする。

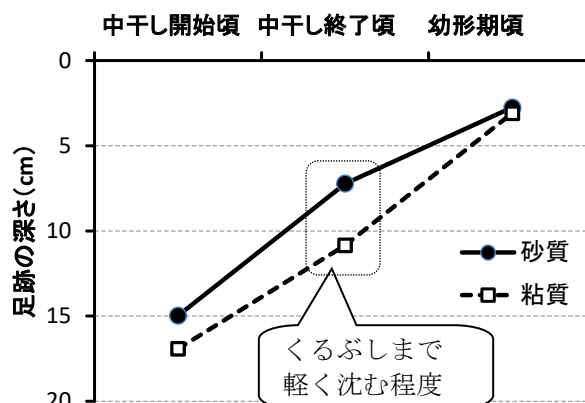


図12 ほ場中央部の足跡の深さの推移 (H22、23 生育観測ほ)

(3) 病虫害防除

<斑点米カメムシ類>

- ・今後、気温の上昇に伴い発生量が多くなると見込まれるので、イネ科雑草の穂が出ないよう草刈りを徹底する。
- ・本田内のノビエやホタルイも、斑点米カメムシ類による被害を助長するので、除草に努める。

※草刈り運動期間：7月1日(土)～10日(月) 一斉草刈り日：7月1日(土)～2日(日)

<いもち病>

- ・苗箱施薬を施用していない場合は、予防粒剤を6月20日頃までに散布する。
- ・BLASTAM情報(農業研究所)を参考に、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

※平年の葉いもちの初発確認日は7月12日(R4:7月20日)

BLASTAM情報(葉いもち予測システム)はこちらから
(農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載)



<紋枯病>

- ・前年多発したほ場や紋枯病に登録のある苗箱施薬剤を施用していない場合は、出穂3～4週間前(粒剤)または、穂ばらみ期(粉剤、液剤等)に防除を行う。

※平年の紋枯病の初発確認日は6月23日(R4:6月22日)

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並、葉齢は0.2葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈はやや長く、茎数は多く、葉色は並となっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月5日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R5	5月16日	27.3	9.5	204	6.1	4.3	35.8
R4	5月16日	26.4	9.3	194	6.2	4.2	35.2
近年	5月15日	26.0	9.3	199	6.3	4.2	36.1
前年比・差	0	103	103	105	-0.1	0.1	0.6
近年比・差	1	105	102	103	-0.2	0.1	-0.3

注1) R5：10ほ場平均（生育観測ほ：4ほ場、栽植密度・遅植え・プラ改善（内立山、小矢部）対照区：6ほ場）

注2) 近年値：H29～R4平均

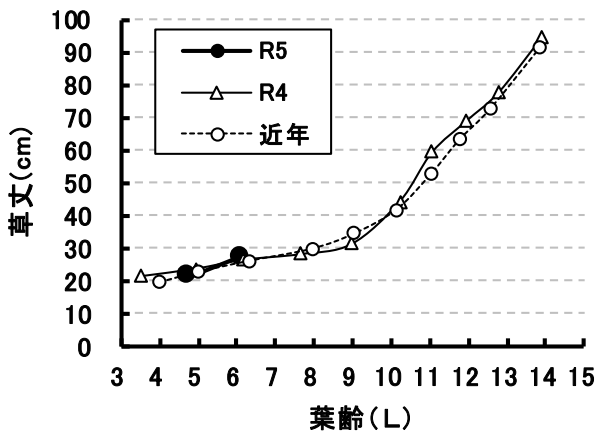


図1 草丈の推移（生育観測ほ等）

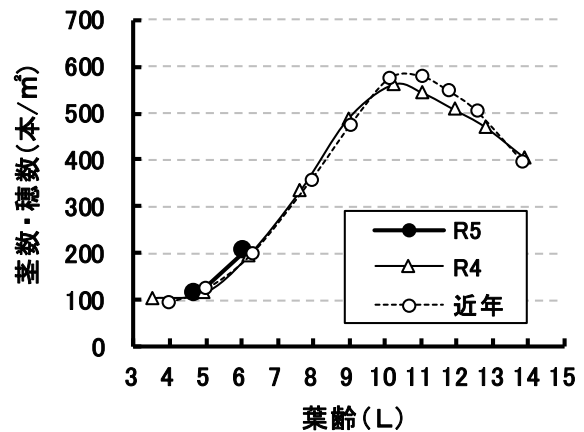


図2 茎数の推移（生育観測ほ等）

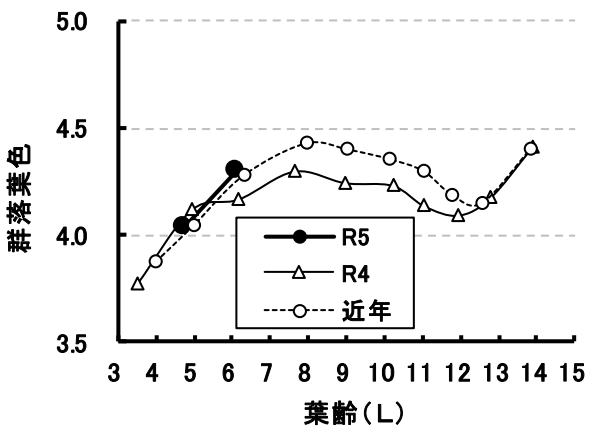


図3 葉色の推移（生育観測ほ等）

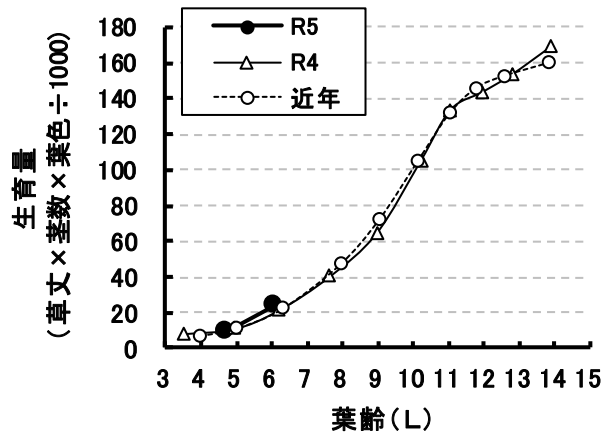


図4 生育量の推移（生育観測ほ等）

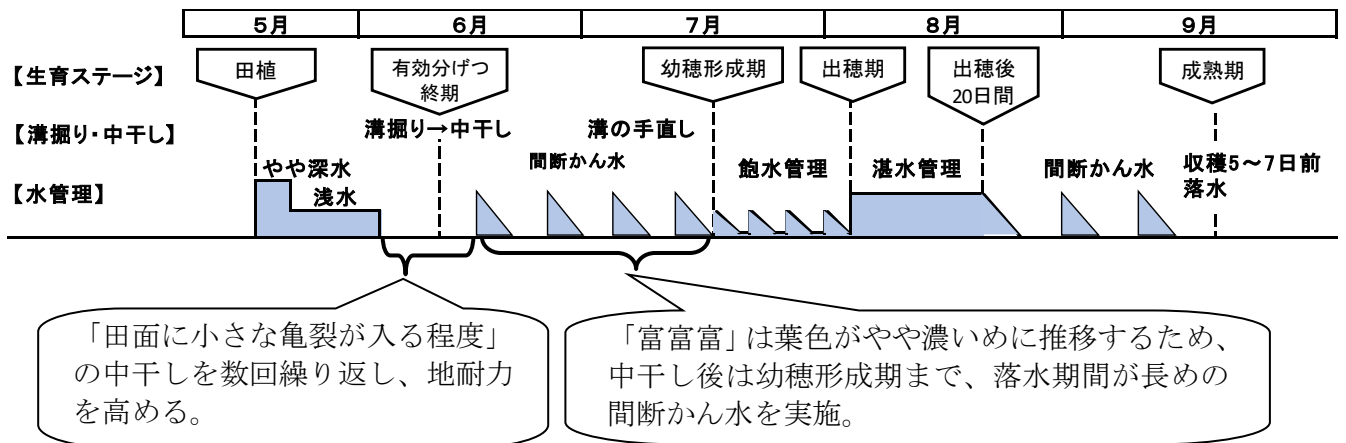
2 当面の技術対策

- ・ 今後、茎数が急速に増加する時期となることから、田植後4週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・ 適正籾数に誘導するため、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。

(1) 中干しの徹底

- ・ 今後、茎数が急速に増加する時期となることから、速やかに溝掘りを行い、田植後4週間までに中干しを遅れずに開始する。
- ・ 「富富富」は葉色がやや濃いめに推移することから、適正籾数に誘導するため、中干し後、幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値を 35（群落葉色 4.0）程度に誘導する。

<水管理のイメージ>



(2) その他の管理

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるよう留意する。

次回の調査日は6月13日（火）です。
「てんたかく」は幼穂長の調査をお願いします。